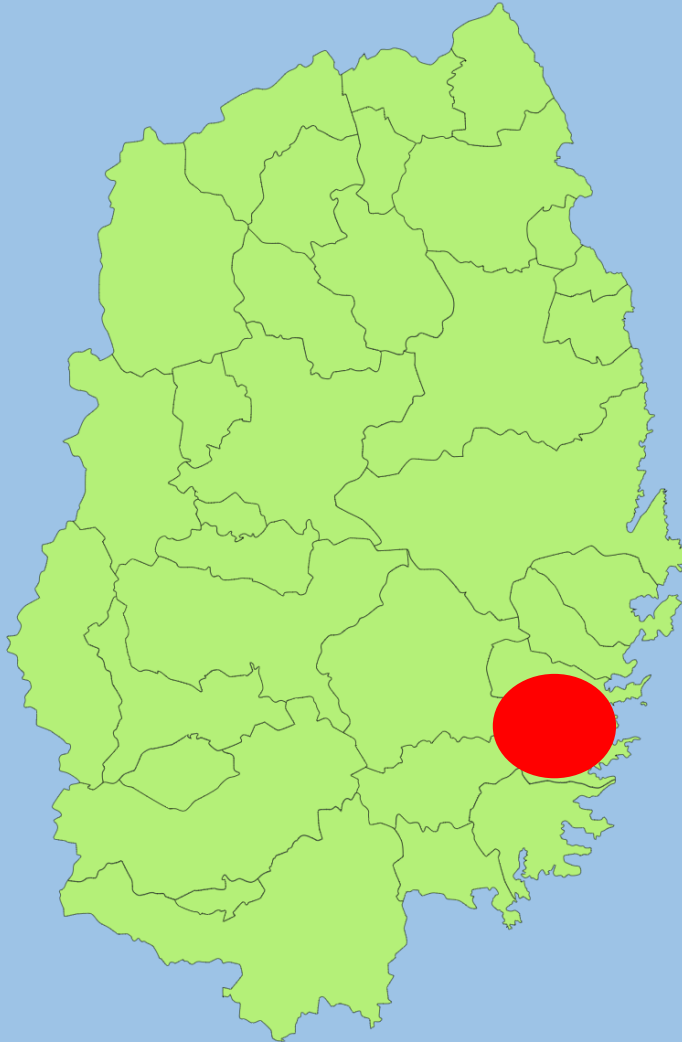


いのちてんでんこ

—釜石東中学校での避難体験—

菊池 のどか

自己紹介



岩手県釜石市出身

釜石東中学校3年生時
に東日本大震災発生

釜石高校、岩手県立大
学大学に進学後、釜石
に戻る

東日本大震災の語り部

はじめに・・・

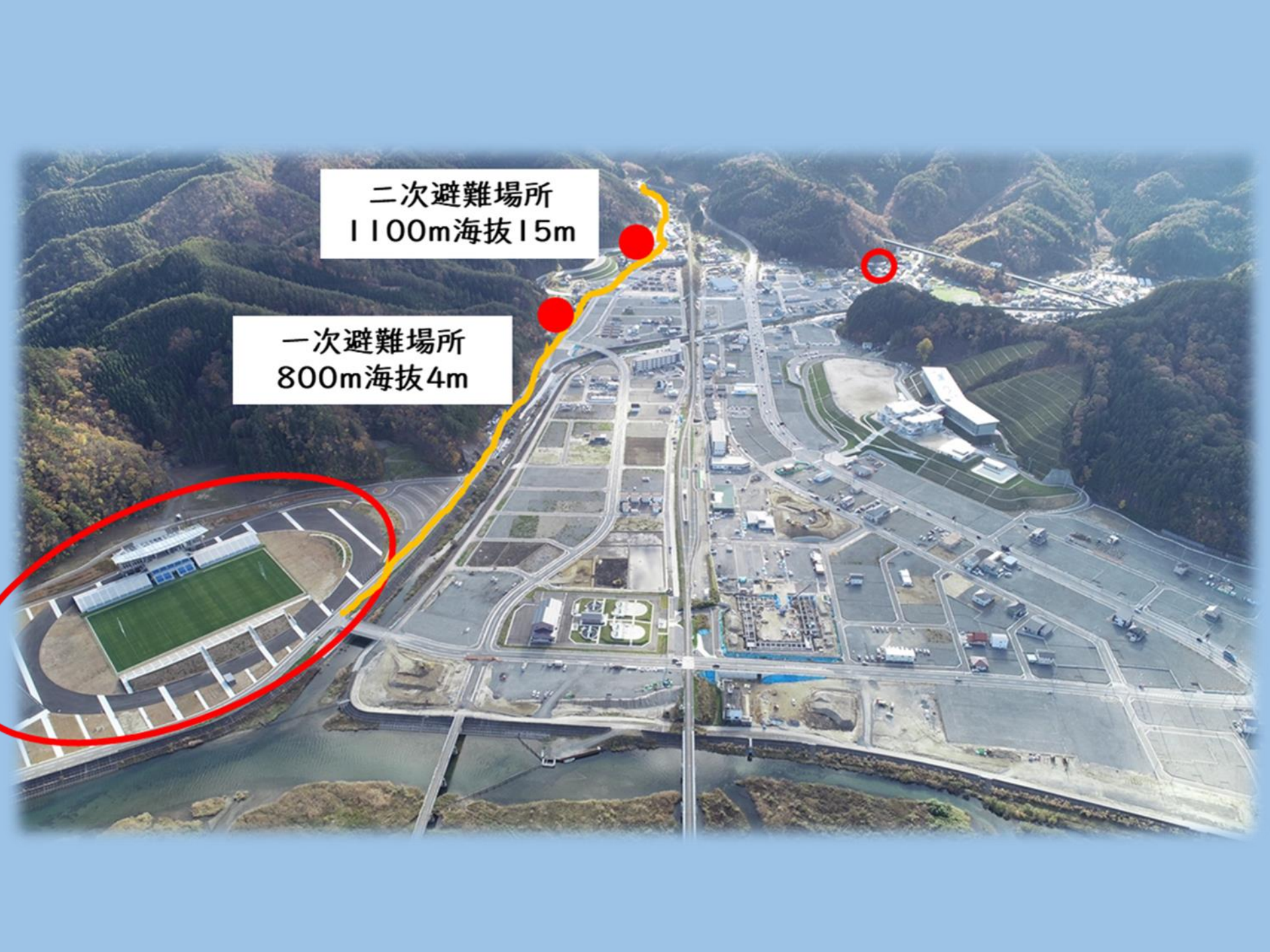
みなさんは
自分の町が好きですか？





2011年3月11日 14:46

東日本大震災 発災



二次避難場所
1100m 海拔15m

一次避難場所
800m 海拔4m



地震発生時

友達と一緒に外にいた
電話ボックスから家に電話をかけていた時

いつもの地震と違う

- とにかく長い(3分以上)
- 山鳴りがした
- 横に揺さぶられるような揺れ

津波が来る逃げなきゃ！

→避難訓練通り、友達と**点呼場所**へ

点呼場所とは？

校庭の隅の空き地

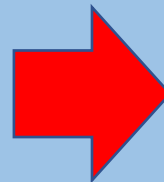
→掃除時間に避難訓練があった際、一度教室に戻り点呼を取ろうとした生徒が居たため、反省をもとに定められた場所

いつもの避難訓練では。。。

必ず点呼を取ってから避難

東日本大震災時には。。。

点呼とるな、はやく走れ！！



生徒は点呼・避難

先生は校舎の見回り

走れる先生は率先避難

副校長は金庫職員室等

の戸締り

ございしよの里に避難

この場所で点呼を取り、生徒児童の無事が確認される

小学校低学年の数名は過呼吸になり、遅れて到着

児童生徒だけでなく、地域住民も集まり出す

小学校の副校長・校長 共に不在



急遽中学校の副校長が小中学生すべてに指示を出す

- ・やまざきデイサービスに避難します
- ・小学生と手を繋いで！

小学生が校舎から出てこない、どうする！？

避難訓練では、隣接する小学生と手を繋いで避難

しかし、震災時は小学生の姿が見えず

待つ？ Or 置いていく？

走れ！逃げろ！出てこい！津波だぞ！
それぞれが叫びながら避難

→学校から300mほどの地点で大津波警報発表



提供：高村幸男氏

(津波襲来直前に鶴住居地区住民が撮影)











地震・津波のあと

- 津波の水は引かないまま町に溜まった。
- においの発生。夏には大量のハエ。
- 道路、線路の流失。ガソリン不足で移動困難。
- 誰がどこで生きているのか、亡くなっているのか分からなかった。
- 火災が発生した町もあった。

地震・津波のあと

- 在宅避難者の人数把握、物資の配布が難しい
- 医療チームが避難所に救護所を開設した場合、避難者以外が行きづらい
- 避難所のトイレ掃除
- 電話やメールが使用不可の場合の連絡方法

実は海の子ではありません

橋野町

鵜住居町

釜石市



古里地区の御神楽スギ

本物で練習する、体験する

危険から遠ざけられて育ってきた世代

あえて危険を知る、安全とは何か考える



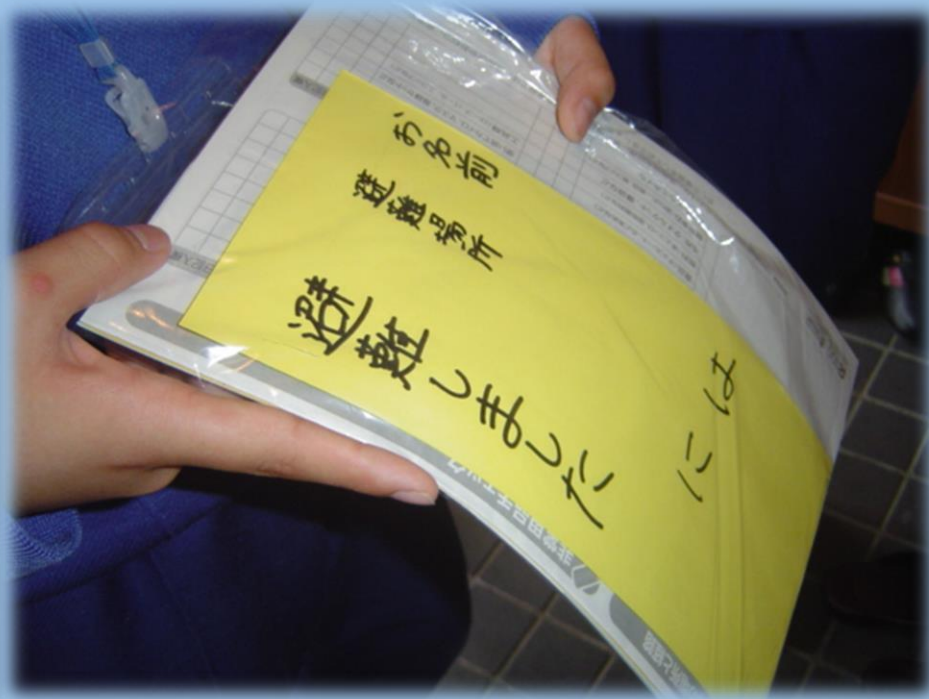
火は熱かった！
消火できた！！
できるかもしれない
→成功体験

津波と同じ時速36km
の車と競争

起震車で震度7に
耐えられるか
立って耐えてみる



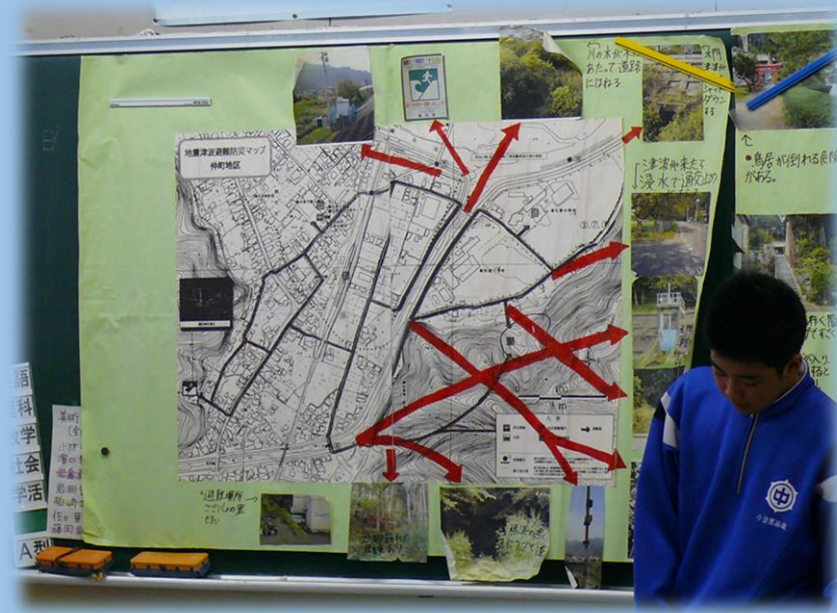
安否札配布



配布しながら近所の人を知る

フィールドワーク

各地区ごとに地域の人と
フィールドワークを行う
地域で昔起きた災害のお話を聞く



逃げない

→逃げられない

→逃げたいけど逃げられない

震災を経験して一番辛かったのは、
津波からは助かった人たちが、
避難先で亡くなっていくことだった。

医療、物資の供給、運搬の体制作り、連絡の方法
事前に取り組んでいれば、受け入れ体制をすぐに
整えることができたなら、もっと生きられた人たちがいた

後悔しないように